

1.講座名	E ボート講習会
2.開催日時	2016年（平成28年）6月26日
3.開催場所	北九州市立 玄海青年の家
4.河川名	遠賀川水系 頓田貯水池
5.参加人数	子ども 0名、大人 9名、指導者 2名
6.講座内容	（各カリキュラム毎に ①カリキュラム名称・②概要・③講師名を記載し、写真を添付。 1日の活動を総括して、最後に考察を記載。）

科目名：オリエンテーション

講師名：西胤 正弘

概要：

講師紹介の後、一日の流れを確認。

「NPO 法人 川に学ぶ体験活動協議会(RAC)」  
について紹介。

水辺の活動での事故事例をふりかえりながら  
事故発生の原因とは何か、どうしたら防げたかを  
検証。指導者としての責任を認識する大切さ、リ  
スクの予見・回避は、リスクとは何かを学ぶ場や  
トレーニングが必要なことについて。



科目名：Eボートのコンセプトと活用例について

講師名：西胤 正弘

概要：

Eボートが作られた経緯、特性、また北九州で  
は、環境教育をはじめ、防災や安全教育にも役立  
てられていることを紹介した。過去にEボートで  
起きた事故事例も挙げながら、適切な使用方法や  
目的を理解した上で活用していく必要のあるこ  
とを確認。

Eボートはもちろん、自然体験活動の場で必要  
となる安全管理のポイントについて講義。



科目名：Eボートの取り扱いについて

講師名：砂田 絵里

概要：

Eボートを取り扱う上での注意点を確認した後、全員で組立作業を実施。

ゴム製のため、破れや穴あきといった破損が起きやすいこと、それを防止するための運搬・収納方法、万一の場合の修復方法について講義。



科目名：Eボートツアーの実際

講師名：砂田 絵里

概要：

準備体操、シングルパドルの操作方法について陸上講習を実施した後出艇。

操作に慣れるため、まずは貯水池の入り江内で「前漕ぎ」「後ろ漕ぎ」「その場回転」を練習。Eボートに親しんでいただいた後、貯水池内のツーリングに出かけた。

ツーリングの後半からは、参加者全員が「舵とり」となる「ラダーマン」を体験。ボートを直進させることはもちろん、全体の動きを指示しながらコントロールすることの難しさ、面白さ。チームワークを活かせば、重たい船がスムーズに進むことを体感していただいた。

ツアー後、「フリップリカバリー」を実践。講師のアドバイスを受けながら、全員がリエントリーを成功させた。

高さのある浮かんでいる物体に、足を踏ん張ることのできない水中からよじ登ることの困難さを紹介。また、通常であれば、周囲には参加者が浮かんでおり、リカバリーする際には十分な注意が必要なことについても確認。



科目名：ふりかえり

講師名：砂田 絵里、西胤 正弘

概要：

今日一日のEボート体験を通じてどうだったかを発言してもらった。

今回は、再受講の参加者が半数以上居り、操船技術も、リエントリーも、繰り返し練習を重ねる必要があることや、水辺で安全に楽しむ知識や技術の習得が必須であることを全員で確認することができた。



考察

講習会の最後に毎回必ず出る感想が、「Eボートは乗っている全員で、その風景や時間を共有できるのが楽しい」です。Eボートは参加者の協力のもと、チームワークを発揮できればスムーズにコントロールすることができます。風や流れの無い穏やかなフィールドであれば、障がいをもった方たちの水辺の体験活動も可能です。

Eボートは対象者やフィールドによって、体験活動から社会教育活動、環境教育、防災教育など、幅広い場面で活用する事が可能です。ひとりで操船するカヌーの場合、漕ぐ力の違いによって集団がバラけたりすることもあります。しかしEボートの場合、みんなそろって活動することができます。Eボートの活用によって、身近な川のこと、水辺のことをより多くの方々に感じていただくきっかけとなれば、安全な水辺の活動方法を一層広めることができます。

今後もEボート講習会を継続し、全国に指導者の輪と活動の場が広がることを願います。